

けせんぬま

普及センターだより

ひとつずつ 明日と未来の なるさとへ!

特集 今年度の普及活動紹介

■トピックス

- ・ 気仙沼金のいづき「港町玄米」が商品化
- ・ ドローン活用に向けた相談会開催
- ・ 「大島かぶ」の新商品が完成

■地域計画策定へ 地域での話し合いを実施

■農業士紹介

■令和6年度職員紹介

今年度の普及活動紹介

1 担い手を核とした地域農業の継続・発展

【対象】表山田・三段田地区の中心経営体2経営体及び主要農家8人

気仙沼市本吉町表山田・三段田地区の水田は、小面積かつ不整形のため、作業性が悪く収益性の悪化が課題となり、また、農業従事者の高齢化の進行により、地域農業の維持が難しくなっています。地区内では、法人1社と個人1人が認定農業者として農業を行っており、地域農業の継続・発展のため、この1法人、1経営体を中心経営体とした人・農地プランを令和3年2月に作成し、農地集積を進めるとともに、ほ場整備事業採択に向けて動き始めました。

①担い手の明確化、地域農業の将来の在り方の合意形成

ほ場整備推進委員会の役員との打合せや、委員会と合同で、地区内の地権者との話し合いを行い、担い手の明確化や将来に向けた在り方について合意形成を図っていきます。

昨年度に引き続き、地区内の地権者や関係者など60人に対して、活動状況やお知らせなどを記載した情報誌「かわら版」を定期的に発行し、きめ細やかな情報共有を図っていきます。



普及センターと役員等との打合せ

②高収益作物の検討支援

昨年度に高収益作物の試験栽培を実施し、候補品目として「えだまめ」を選定しました。今年度は「えだまめ」の大規模栽培を見据えて収穫時期の分散化を図るため、播種時期の検討などを行っていきます。



高収益作物試験ほ場のマルチ張り

③省力化技術向上支援

水稻作業の省力化や作期分散を目指して、水稻乾田直播や農業用ドローンを用いた追肥、防除など省力化技術の向上を図るための支援を行っています。

2 枝もの用クロマツ栽培における若松の商品化率の向上

【対象】株式会社南三陸Pine Pro

令和3年度から令和5年度まで枝もの用クロマツ（以下、クロマツ）の生産拡大による経営発展の支援を行いましたが、当初目標の収量に届きませんでした。

クロマツは、定植してから3年後に収穫しますが、収量を決める要因は定植後の歩留まりで、歩留まり向上には定植苗の活着率向上と初期生育を阻害する雑草の早期防除が必要です。

苗の活着率向上には良質な苗が必要ですが、購入苗が良質とは限らないため、自家栽培による育苗が必要で令和6年度は、播種後の出芽率向上と苗品質の均一化について取り組みます。

また、ほ場毎に発生する雑草の種類が異なることから、これまでは手取り除草を行ってきましたが、幅広い草種に効果のある除草剤をクロマツで利用できるようにするため、令和5年度に農薬適用拡大試験の現地試験に取り組み、薬害程度等を調査するなどして有効性を確認しました。除草剤のクロマツへの適用登録にはもう1年試験をする必要があるため、令和6年度も現地試験を行います。

これらの取組のほか、収穫前の葉色改善、収穫後の出荷調製作業の改善、出荷前の品質維持などについて支援し、商品化率の向上を目指します。



令和6年度の定植作業



令和6年度に収穫予定のクロマツ

3 生食用ぶどうのブランド化による生産拡大

【対象】南三陸大粒（おつづ）ぶどう協議会（会員9人）

令和5年11月に設立された「南三陸大粒ぶどう協議会」は、南三陸町産ぶどうの認知度向上や栽培拡大を図るため、ぶどうの高品質化・ブランド化に向けた取組を行うこととしており、普及センターでは、南三陸町産ぶどうの生産拡大による新たな産地形成に向け、協議会の取組を支援します。

①ブランド化支援

ブランドロゴやパンフレット等の作成によるブランド化を図るとともに、地域直売所等と連携し、販売会の開催による南三陸大粒ぶどうの認知度向上、販売促進を支援します。

②栽培技術向上及び環境負荷低減、新技術の導入支援

生産者同士の技術平準化に向け、栽培研修会の開催や巡回指導による支援を行うほか、環境負荷低減や町の資源を有効活用した栽培管理や、ぶどうの高品質化に向けた新技術を導入した展示ほの設置・運営等を支援していきます。



ブランド化に向けた打合せ



収穫前のぶどう（令和5年8月）

トピックス

気仙沼金のいぶき「港町玄米」が商品化!

「気仙沼金のいぶき」は、「プラスチックコーティング肥料を使わない」、「貝殻を活用した土づくりを行う」という気仙沼の地域色を生かし、環境に配慮した独自の栽培基準で栽培され、この度、「港町玄米」として商品化されました。

令和6年2月22日には完成記念試食会が開催され、地元の素材を使った中華粥やパエリア風炊き込みご飯などの料理として提供され、試食した参加者からは「これまでの玄米と違って美味しい」といった声が多く聞かれました。



港町玄米と試食会で提供された料理

農業用ドローンの活用に向けた相談会を開催

令和6年3月8日、気仙沼市の農業法人1社を対象に、農業用ドローンの活用に向けた相談会を開催しました。アドバイザーの株式会社ケーエスからは、薬剤散布の実演や、機体性能、費用対効果等についての情報提供が行われました。導入を検討する生産者からは、作業性の良さや自動飛行等に対する期待が寄せられ、熱心な意見交換が交わされました。



ドローン操縦の実演

「大島かぶ」を使った新商品が完成!



大島かぶ

「大島かぶ」は、気仙沼市大島で古くから栽培されており、かぶとは思えない独特な見た目や甘み、ホクホク感などの特徴があります。この大島かぶの存在を知ってもらい、需要拡大を目指すべく、気仙沼大島地場産品出荷・販売組合を対象に、令和6年1月から2月にかけて商品開発研修会を開催しました。講師のフードコーディネーター カワシマヨウコ氏のアドバイスのもと試作を重ね、「かぶの砂糖煮」を活用した「大島かぶ蒸しパン」を完成させました。

大島かぶ蒸しパンは3月10日に気仙沼大島ウェルカム・ターミナルで開催された「わかめまつり」で販売され、用意した100個が午前中に完売してしまうほど好評でした。



大島かぶ蒸しパン

地域計画策定へ

地域での話し合いを実施

管内市町では、令和6年度末までに将来の地域農業の姿を描いた「地域計画」を、気仙沼市は7地区、南三陸町は4地区で策定することとしています。昨年度は計画策定に向け、農業者の意向調査や説明会が実施され、それをもとに各地区において10年後の地域農業の在り方や農地利用の姿等について話し合いが行われました。

県の地域計画策定推進モデル地区となった南三陸町入谷地区では、昨年11月から計4回、将来、地域農業を担うであろう若い担い手を中心に活発に意見が出され、耕作を継続するほ場や果樹による地域おこしをするエリアなどを地図に落とし込む作業を行い、地域計画の素案がまとまる段階まで進みました。

その他の地区では、農地の条件が整えば耕作が可能な地域や将来的に耕作が困難な地域など、地区の現状や課題について検討されました。

今年度も各地区で話し合いが行われる予定となっています。地域計画の策定を10年後の地域農業や暮らしを改めて考える機会と捉え、地域の将来を話し合ってみてはいかがでしょうか。



地域での話し合い

新農業士紹介

令和6年度に新たに認定されたお二人を紹介します



星 達哉 さん
(指導農業士)

南三陸町西戸川地区においてパイプハウス2haと露地6haでこまつなを中心に野菜の周年栽培を行っており、県内でも有数の規模となっています。栽培の特徴は、カキ殻や海藻など町内の資源を活用した循環型の土づくりです。経営の安定化を図るため、新たな品目としてケールやビーツの栽培も開始し、販路の拡大に取り組むほか、地域の雇用創出にも貢献しています。

東日本大震災後に階上いちご第2復興生産組合の一員として、いちご栽培(20a)に取り組み、いちご産地の復興に寄与しています。また、就農前から4Hクラブに加入して県連理事や地区連会長を歴任しました。現在、今年10月に開催される東北農村青年会議宮城大会に向けて、実行委員として精力的に取り組んでいます。



佐藤 友耶 さん
(青年農業士)

気仙沼地方振興事務所農業振興部・気仙沼農業改良普及センター 職員紹介

普及センター

新 技術副参事兼総括次長
門間 豊資
【果樹】

新 所長
佐藤 淳
【作物】

総括技術次長
門脇 宏
【畜産】

よろしく
お願いします

先進技術班

新 技術主幹(班長)
村主 栄一
【花き】

技術主幹
須藤 邦彦
【花き】

技師
菊池 光洋
【野菜】

地域農業班

技術主査
早坂 裕子
【作物】

技術次長(班長)
清水 俊郎
【畜産】

技師
高橋 篤広
【果樹】

農業振興班

新 技術主幹
今野 誠

技術主幹(班長)
鈴木 剛

主事
鈴木 千智

新 技術主任主査
安藤慎一郎

宮城県気仙沼農業改良普及センター

〒988-0181 宮城県気仙沼市赤岩杉ノ沢47-6 TEL: 0226-25-8068 FAX: 0226-22-1606
URL: <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ks-tihouken-n/kesennumanoukai.html>

